

第22回

中学生訪中親善使節団報告書

平成27年7月28日（火）～8月2日（日） 6日間

上海・南昌



第22回中学生訪中親善使節団



上海で有名なTV塔、東方明珠の展望台にて



上海最大の繁華街、南京路にて



上海動物園にて



南昌市到着、横断幕でお出迎え



ハー中学での交流会



人大常委会 魏副主任と乾杯



文化創意園で版画印刷を体験



南昌市政府表敬訪問



文化創意園にて



滕王閣より周囲を望む



ホストファミリーとのお別れ



上海、豫園にて



噂のリニアモーターカー

目 次

| | |
|--------------|----|
| I 団 員 名 簿 | 1 |
| II 日 程 | 2 |
| III 使節団の活動状況 | 3 |
| IV 感 想 文 | 13 |

第22回中学生訪中親善使節団 団員名簿

団 長 馬 場 朋 美 (公財)高松市国際交流協会常務理事

同行職員 高 岡 光 男 (公財)高松市国際交流協会職員

団 員 宮 下 文 直 高松市立山田中学校 1年

〃 青 木 由希乃 香川県立高松北中学校 1年

〃 久保田 殊 羽 高松市立高松第一中学校 2年

〃 ルーツ+河エドワード 高松市立紫雲中学校 1年

〃 坂 部 聖 成 香川大学教育学部附属高松中学校 1年

第 22 回中学生訪中親善使節団 日程

| 月 日 (曜日) | | 主 な 行 事 | | 宿 泊 |
|----------|----------------|--|--|--------------------------------|
| 1 | 7月28日 (火曜日) | 10:30 13:50 15:00 17:00 | 高松空港集合 (出発式) 春秋航空 9C8890 便にて上海へ 上海浦東国際空港着 東方明珠 (TV塔)、南京路、外灘見学 | (上 海 泊) |
| 2 | 7月29日 (水曜日) | 8:45 13:17 16:42 18:00 | 上海動物園見学 高鉄 G1389 にて南昌へ 南昌駅着、中日友好会館へ移動 ホストファミリー対面式 | (南 昌 泊) ホームステイ ※引率者はホテル泊 |
| 3 | 7月30日 (木曜日) | 8:30 8:45 12:00 13:30 14:30 16:30 | 南昌八一中学校集合 八一中学見学、生徒と交流 南昌外事僑務弁公室主催歓迎昼食会 秋水広場 (噴水) 見学 鳳凰洲市民公園 (SL) 見学 華潤万家見学 | (南 昌 泊) ホームステイ ※引率者はホテル泊 |
| 4 | 7月31日 (金曜日) | 8:30 9:30 10:20 12:00 13:00 14:30 16:20 19:00 | ホテル集合 贛江市民公園見学 (大観覧車) 瓷版画芸術博物館見学 南昌市人民政府表敬 南昌市人民政府主催歓迎会 青山湖 699 文化創意園見学 滕王閣見学 ホームステイ先訪問 (団長、引率) | (南 昌 泊) ホームステイ ※引率者はホテル泊 |
| 5 | 8月1日 (土曜日) | 8:30 9:00 11:30 13:00 14:30 | ホテル集合 南昌昌北空港へ移動 FM9246 便にて上海へ出発 上海虹橋新空港着 豫園見学 | (上 海 泊) |
| 6 | 8月2日 (日曜日) | 6:40 8:45 11:40 | ホテル発 春秋航空 9C8889 便にて高松へ 高松空港着 (解散式) | |

使節団の活動状況

7月28日（火曜日） 使節団1日目

●高松～上海

上海からの春秋便到着が約1時間遅れとなり、その折り返しで中学生訪中親善使節団の出発も約1時間遅れの13:50発となった。1名、熱が収まらず残念ながら当日朝に急遽キャンセルとなった。

馬場団長始め団員代表で坂部君が抱負を込めて出発の挨拶を行った。ご家族の皆さんに見送られ、無事出発。機内は昨今中国からの団体の旅行客も多くほぼ満席であった。予定より1時間遅れで上海浦東空港に到着。

空港に降り立った途端に熱気に襲われる。気温37度。異常に暑い。道路の渋滞もあり、旧市内に着いたのは17:00近く。まず東方明珠（テレビ塔）を見学。日本で言う東京タワーのような感じで上海に来る観光客は必ず訪れるという主要観光スポット。夏休みということもあって親子連れの観光客で大混雑。塔の上部に上るエレベータ待ち約1時間でやっと展望台に上れた。周囲には高さ632mで世界2位の上海中心や上海環球金融中心（高さ492m）等、超高層ビルが林立。



高層ビル群を望む

休む間もなく、銀座並の有名海外ブランド専門店が勢揃いしている上海中心の繁華街、南京路へ。高級ブランド店と小さな小喰屋さんのコントラストがいかにも中国らしい。

そのまま日の暮れた外灘（バンド）へ。19世紀後半から20世紀前半にかけて欧米列強が中国に進出してできた租界地である。古い西洋式建築物がたくさんあり、異国情緒が味わえる所である。夜はホテル近くのレストランにて遅めの夕食をとった。



上海旧租界地、外灘の夜景

7月29日（水曜日） 使節団2日目

●上海～南昌

ホテルで朝食をとり、8時45分には虹橋空港近くの上海動物園に到着。広さ74万㎡、中国最大級の動物園である。端から端まで歩くと20分弱かかる広大さ。お目当てのパンダが一番奥であり、歩くだけで汗だくになる。気温はすでに35度近く。パンダも暑さでぐったりとお休み中。



上海動物園入り口にて



暑さでぐったりのパンダ

急いで昼食を済まし、新幹線の上海虹橋駅へ。日本の新幹線並みに最高時速 300km で走る。上海からは南京方面、杭州方面向けに計 1 日 43 便、約 20 分に 1 本の割合で運行されている。駅の中は大勢の旅行客で溢れかえっていた。

上海からは新幹線「和諧号」で南昌へ。広大な中国大陸の中を、延々と同じような街並み、農村地帯を見ながら 3 時間半かけてようやく南昌に到着。外事僑務弁公室の張副主任他関係者が歓迎の横断幕を持ってお出迎え。



新幹線「和諧号」



新幹線 - 上海虹橋駅にて



ホストファミリーのお出迎え



外事僑務弁公室の挨拶とホストファミリー受入式

中日友好会館へ移動し、外事僑務弁公室 黄主任の歓迎挨拶及びホストファミリーとの対面式が行われた。団員たちはどんなホストファミリーだろうかと興味深々で対面した後、それぞれの家庭に向かった。

8時半、各自ホストファミリー宅から八一中学に集合した。まず盧校長、左書記、王副校長等の挨拶があり、その後八一中学の生徒達と交流会を行った。夏休み中にも関わらず八一中学の多数の生徒が参加。

八一中学側は縦笛での日本の民謡の演奏、中国の古典楽器「二胡」での演奏、現代舞踊等を披露、訪中団のメンバーは手振りも含めた茶摘み歌の合唱や、中国の「茉莉花」の合唱をしたり、栗林公園のキャラクター「りんちゃん」の絵描き伝言ゲームや高松市紹介の〇×ゲームを行い、なごやかな雰囲気終始した。



南昌八一中学の皆さんの合唱



盧校長に記念品贈呈



訪中団員達の合唱



絵描き伝言ゲーム

八一中学との交流会後、南昌外事僑務弁公室主催の昼食会に参加。個室の番号も縁起を担いだ888号室。（8は裾広がりの意味を持つ）地元料理も団員の味覚に合わせてちょっぴり辛さを抑えられており、料理に舌鼓を打っていた。

午後は、大規模な噴水のある秋水広場を見学。通常はライトアップ、音楽付きで夕涼み時に実施される噴水であるが、南昌市の特別な計らいで昼間に噴水の実演をしてもらった。気温は今日も37度。厳しい暑さにもめげず、大音量の音楽と巨大な噴水に団員は写真を撮りまくっていた。



外事僑務弁公室との昼食会



秋水公園の大噴水



鳳凰洲市民公園のSL

秋水公園の噴水を見た後、一行は鳳凰洲市民公園へ。今年1月に開通したばかりのミニSL（蒸気機関車）に乗車。遊歩道の歩行者との安全面の見直しで現在運休中であるが、今日は南昌市の特別対応で我々の為に臨時運転をしてもらった。短い距離であるが、団員はミニSLの旅を楽しんだ。終点の展望台では広大な贛江（かんこう）の景色を見てはしゃいでいた。床が透明の板で川面が透けて見える展望台でおどけた格好で記念写真を撮る団員も。



鳳凰洲市民公園展望台にて

夕刻前に少し時間を取って、ホストファミリーが迎えに来るホテルの近くの華潤万家という中国系のスーパーで買い物をした。ユニークな買い物かごを持たされて、団員達はお土産用にお茶やキャンディー類を買い込んでいた。このあと団員達はホテルから各ホストファミリーの家へ移動した。



華潤万家にて



7月31日（金曜日）使節団4日目 ●南昌

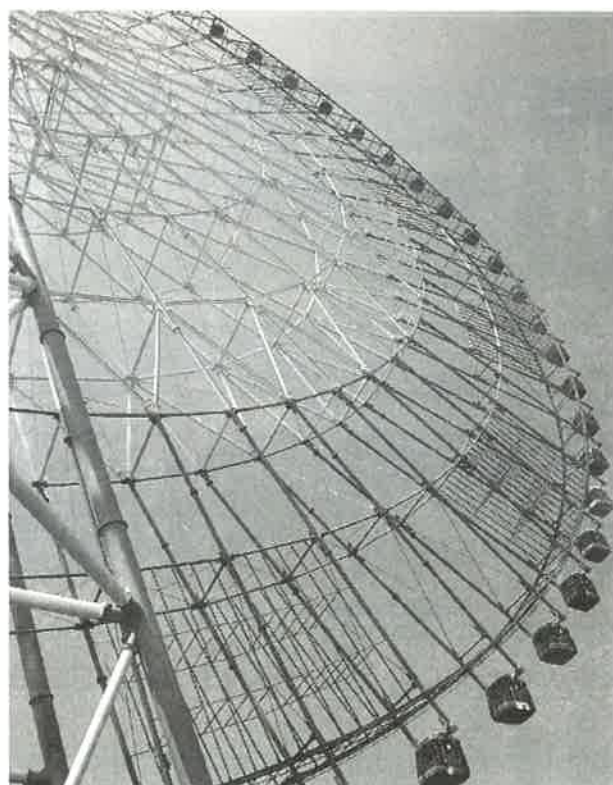
天気は晴天。予想気温 35 度。本日も暑い 1 日になりそうだ。ホームステイ先から、ホストファミリーに送られて、生徒達が順次集まってくる。ホームステイも昨日 2 泊目となり、少しは慣れたのか、表情に余裕が感じられ、ほっと安堵する。

本日は、南昌市内見学と、市政府への表敬訪問という大仕事が控えている。我々を乗せたバスは、まずは、贛江市民公園の大観覧車へと向かった。この観覧車は、「南昌之星」と称し、高さ 160 メートルの世界第 3 位の観覧車である。1 回転 30 分の空中散歩、最上段からの眺める南昌の街は壮観である。が、観覧車というのは基本ガラスの箱状態である。

この暑さの中、大丈夫かと心配したが、冷房がありやれやれ。



瓷版画芸術博物館



巨大な観覧車

次に、瓷版画芸術博物館へ。ここは、2013年にオープンというまだ新しい施設である。タイルに絵を描き焼きつける、ポーセリンアートの作品が展示してある。写真のように、いえ写真以上に微細に肖像を残すことが目的で始まったようで、歴代指導者の面々が並んでいた。

いよいよ、市政府への表敬。会場は、開業間もない感じのスイスインターナショナルホテルの宴会場。広く豪華な部屋の中央に、会見場がセッティングされていた。ここで、ちょっとしたハプニングが。南昌市人民代表大会常務委員会 魏国華副主任が会議のため、結果小1時間は待つことになってしまった。しかし、そのおかげで、団員一同ゆっくり休憩することができてよかった。

やっと始まった会見でまたハプニング。時間を急いだため、生徒代表の宮下君のあいさつを忘れてしまった。これは、後の昼食会に回すことで解決された。

昼食会、ルーツ君が積極的に乾杯に回り、ほのぼのとした雰囲気終始した。



南昌市政府表敬挨拶

午後からは、青山湖 699 文化創意園というアート工房に。まだ工事中のところもある新しい施設。色々なアート体験が楽しめる。ここで版画の摺りを体験。



文化創意園にて版画印刷の体験



文化創意園 入口の毛沢東像と団長

最後の見学地は滕王閣。唐代創建の名楼で、当時は王たちの宴会等楽しみの方であったとか。それにしても、いつもながら人が多い。ちょっと油断すると迷子になりそうだ。

暑さが一段と感じられる。ここに来ると、いろいろ熱心に説明してくれる外事僑務弁公室の顔さんの説明が一段と熱を帯びてくる。しかし、お疲れモードか、生徒たちの反応はもう一つであった。顔さんごめんなさい。



滕王閣 九層構造の本館



滕王閣の周辺の建物。果てしなく増築中である

1日の見学を終え、生徒たちは迎えに来てくれたホストファミリーとともにそれぞれの家庭に戻って行った。

夕食後、顔さんの案内で青木さんのホームステイ先を訪問。ホテルから歩いて行けるということで、黄昏の街に出発。通りのあちらこちらの空き地で、広場ダンスが盛況だった。ちょっと仲間入りしたい気が…。

ホストファミリーの屈さんの家は、アパートの7階。階段で上がるのは、少々疲れたが、家族みんなで青木さんを温かく受け入れてくれていることが手に取るように分かり、とてもうれしく感じた。



夕方、街中の広場でダンスの練習



ホストファミリー宅訪問

8月1日(土) 使節団5日目

●南昌～上海

今日は南昌を発つ日。晴天、予想気温 34℃。

生徒たちが、早々とホストファミリーに送られて集まってきた。8時30集合とは言え、朝食を準備してくださり、送って来てくださるホストファミリーの皆さんには、ただただ感謝。

ホストファミリーに頂いたたくさんのお土産を抱え、記念撮影をしたり、慌ただしい別れを惜しみながら、手を振りバスへ。途中、八一大橋たもとの巨大な白と黒の猫の像を横目に見て、一路空港へ向かった。



みんなで別れの記念写真



八一大橋の黒猫、白猫

10時20分フライト予定の上海航空は、搭乗したものの動く気配なし。案内もなし。そうこうする内に、なんと機内食が配られ始めた。ということは、暫く離陸しないということ？焼き飯のようなご飯が結構美味しかった。結果、11時30分に離陸することができた。



南昌 昌北空港にて

再び訪れた上海は、南昌以上に暑く、暑さが纏わりつく。飛行機が遅れたため、早速豫園に向かう。上海の随一の観光スポットとして有名な豫園は、明の官僚が父親にプレゼントするために造営したとされている。広い園内に見どころは多い。周辺は豫園商城と呼ばれ、ショッピングにグルメに人が集まり、いつもごった返している。



豫園の3人組



豫園入口にて

ここで自由行動。生徒たちは、さあ値切るぞと勇んでショッピングに繰り出し、成果を上げて帰ってきた。

結局、上海博物館は時間の都合で割愛することになった。

中国最後の晚餐は、明日の朝に備え宿泊する、空港内ホテルでとった。長いような短いような中国訪問も、最終となると名残惜しい。

明日は早い。ゆっくりおやすみなさい。



上海浦東空港の夜景



中国最後の夕食会

5時モーニングコール。6時半ホテルロビーに集合して朝食に。慌ただしく朝食を食べ、徒歩で国際線の出発ロビーへ急ぐ。搭乗手続きのところで、高松に向かう八一中学の訪問団と再会。その後、出国審査前で、顔さんとお別れする。いろいろお世話になりました。再見！！手続きは順調に進み、出発ゲート売店で、最後にお土産を買うことができた。

ハードスケジュールで駆け抜けた6日間。最後の日本へのフライトは、ほぼ定刻で離陸し、無事12時前に高松に降り立った。色々ハプニングはあったが、無事全員そろって、元気で戻れたことにほっとした。関係皆様のご協力に感謝。



上海浦東空港にて、いざ日本へ



感 想 文



中学生訪中団の暑い夏

第 22 回中学生訪中親善使節団团长 公益財団法人高松市国際交流協会

常務理事 馬場 朋美

第 22 回高松市中学生訪中親善使節団の一行 7 名は、平成 27 年 7 月 28 日から 8 月 2 日の 6 日間の日程を無事終えた。とは言え、今年の夏の暑さは、中国も日本も並はずれ、さらに、南昌は、南京、武漢、重慶と並ぶ中国の 4 大ストーブと言われる暑い地域。ひたすらに熱中症が心配な 6 日間であった。

今回の訪問団は、友好都市南昌市と上海市の 2 都市を訪問した。南昌市では、地元中学生宅で、例年より 1 日長い 3 日間のホームステイをさせていただき、中国の一般家庭の生活を体験することができた。市政府への公式訪問を行い、また八一中学校では同年代の生徒達と、歌やゲームで楽しく交流を図ることができた。

加えて、南昌市内の主要な観光地・施設を訪れることもでき、貴重な体験と多くの感動を得た。あわせて訪れた上海では、活気あふれる現在の中国の状況を目の当たりにすることができた。

私自身としては、昨年につき 2 回目となる親善使節団团长としての訪問であり、上海浦東空港で出迎えてくれた南昌市職員の顔さんを見つけた時は、とても懐かしい気がした。昨年もそうであったが、今回の訪中も、スタートから様々に問題が発生し、どうにか実現に漕ぎつけることができたものだけに、感慨深いものがある。

当初、訪中団の募集を始めても、なかなか集まらない応募者に、一時中止も検討したのだった。

しかし、今年は南昌市と高松市との友好都市提携から 25 周年という記念すべき年であることから、とにかく訪問を途絶えさせてはいけないとの判断に至り、実施することに決定したのであった。

集まった団員は 6 人。少なかった昨年の 7 人よりもさらに 1 人少なく、加えて、出発の当日になって、発熱のため 1 人が、高松空港で断念するという残念な事態に。結局、5 人となってしまった団員達と同行の我々大人が 2 人の計 7 人で出発した。

団員達は、事前研修期間中なかなかフルメンバー揃うことがなく、十分に打ち解けあうことができないままの出発となってしまったことに、いささか危惧を感じていたが、中国では、みんなそれぞれの個性を発揮して、しっかりと自分の役割を果たそうとし、ぎこちなさはあるものの、全ての行事・場面を無事にこなすことができた。

南昌市では、南昌市人大常委会 魏国華副主任さんをはじめ、外事弁公室の黄主任さん、張副主任さん、顔さん、万さん、八一中学の蘆校長先生などの熱烈歓迎に、ホストファミリーの皆さんの温かい対応に感謝である。

ホストファミリーとの対面式で、八一中学の交流訪問で、人民政府表敬訪問で、どこにおいても、25 周年にあたる年であることが話題に上り、これまでの交流の成果と今後への期待が、南昌市側から熱く語られた。今回、少ない人数の訪問団になってはしましたが、本当に来てよかったと思った瞬間である。暑い夏、厚い南昌の人々と過ごした暑い日々は、中学生団員にとって、将来の大きな糧となっていくだろうと信じている。

今後の、南昌市との友情の末永く続くことと、団員達の成長とを願って、帰国したのである。諸位謝辞！ 南昌再見！



南昌八一中学の先生方と



南昌市政府表敬訪問



「百聞は一見にしかず」

公益財団法人高松市国際交流協会

事務局員 高岡 光男

酷暑の日々が続く中、7月28日、我々訪中親善使節団は高松空港を飛び立った。上海発からの便の到着が遅れ、約1時間遅れの出発となった。

上海浦東空港に着いてから上海中心部まで渋滞もあり、東方明珠テレビ台に着いたのは既に夕方の5時。大気汚染がひどく、沈む夕日が霞んで見える。

上海でも代表的な観光スポットということもあり、夏休みもあって、大勢の子供連れがいた。周囲には、上海中心や上海環球金融中心等の超高層ビルが林立し、団員達は世界有数の巨大都市の大きさに驚いていた。慌ただしく展望台を一周して外灘へ。かつて欧米列強が進出した租界地の歴史的建築物が今でも残り、ライトアップの中で異国情緒を醸す美しい風景に団員たちは感銘を受けていた。彼らが過去の歴史を学べばまた更なる中国の理解が深まることだろう。上海からは最高時速300kmの新幹線で移動。延々と続く郊外町村、農村風景を見て今更ながら中国という国土の広大さを実感した。到着した南昌では南昌市の外事僑務弁公室の張副主任、万さんらが歓迎幕を持ってお出迎え。早速、中日友好会館で歓迎レセプションと八一中学のホストファミリー対面式があった。



南昌の高層ビル群

南昌市八一中学では夏休みにも関わらず盧校長先生他大勢の生徒達も集合。歓迎交流会では事前に催し物の練習をかなりされた模様。中国の舞踏や日本の歌、二胡の演奏等、八一中学生の熱い対応振りに感銘を受けていた。使節団は日中の歌、身振りも加えた「茶摘み」の合唱、高松市の〇×クイズ等を実施し、八一中学生徒との打ち解けた楽しい交流会となった。



八一中学での高松市〇×クイズ

市内見学では、秋水広場の大規模噴水とか鳳凰洲市民公園のミニSL（蒸気機関車）とかを見学。噴水は通常夜間だけであるが特別に昼間に稼働させてくれた。また、鳳凰洲市民公園のSLも今年初めにオープン後、整備で運休中であつたところを、特別に当日のみ運行して頂いた。南昌市の「熱烈歓迎精神」に大変感動した。

ホームステイでは団員達は今回、八一中学校生徒の家庭に宿泊。6、7階立てのアパートでもエレベーターがなかったり、トイレとシャワーが兼用だったり、日本とは異なる生活環境に戸惑いながらも、ホストファミリーの心の籠った対応に感激し、異文化での交流体験の貴重さを実感した模様。

高松市の人口42万人に対し、最初に着いた上海が1,430万人、世界的超高層ビルの林立に団員達は驚いた模様であるが、目的地の南昌も人口220万人、複数の高層ビルや高層アパートが立ち並んでおり、高松とは比較にならないその規模の大きさに圧倒されていた。言語も、日本語が通じず、殆ど中国語だけの環境へ、また現地の市民生活に触れたり、日頃高松に居ただけではわからない海外の世界を肌で感じたことにより、団員のこれからの世界を見る目、そして日本を見る目もかなりかわってくるのではないかと思う。

「百聞は一見に如かず」の諺もある通り、実際に異文化を肌で味わった実体験がこれからの団員達の成長に大きく寄与することを願ってやまない。最後に多忙な仕事の合間に、我々親善使節団の為に多大な配慮を下さった南昌市、外事僑務弁公室の皆さんに心よりお礼申し上げます。



なるほど！繋がるって最高なんだ。

高松市立山田中学校 1年 宮下 文直

高松空港を離陸した時には「これから中国へ行くんだな。」と思っていただけなのですが、上海空港に着くと中国語ばかりで言葉が違う。日本語が見当たらない。でも団長さんや仲間達がいるから、どうにかなる、と自分をなぐさめて深呼吸しました。とても大きなテレビ塔を上階まで登りガラス張りの床に興味をそそられ男子3人で足だけの写真を撮りました。夜になると夜景が美しく人通りも多く、普段の夜は、お風呂に入って寝るだけの僕にとってカルチャーショックでした。レストランで夕食をとったのですが、量が多く驚きました。当たり前ですが、ジュースのラベルが中国語でした。日本で見かける「7UP」は中国語で「7喜」でした。



南昌市政府表敬挨拶

2日目。上海動物園では暑さのためか動物たちが夏バテしているように見えました。午後からは高鉄G1389に乗り込み南昌へ向かいました。僕は疲れていたのか眠ってしまいました。そして、待ちに待ったホストファミリーとの対面です。ホストブラザーに会った瞬間「頭よさそう。」と思いました。

3日目と4日目。南昌市人民政府への表敬訪問では緊張してしまいました。市政府関係者の方が沢山いて、表敬の挨拶文を暗記したつもりは、ただのつもりで、半分以上忘れてしまいました。中国語を入れながらの台本は一瞬にして崩れました。しかし皆さんが温かく見ていてくれたことが大変嬉しかったです。何かが通じたように感じました。

八一中学校では、皆さんのパフォーマンスが素晴らしく感動しました。きっと、かなり練習したのだと思います。僕達の〇×クイズでは敗者復活戦になった事が、面白く心に残っています。皆と一緒に笑いました。また何かが通じたように感じました。

夜は、ホストブラザーと一緒にパソコンでゲームをしました。彼のゲームをする時の手つきを見て、かなりのマニアだな、と思いました。ゲームをしながら2人で盛り上がりました。言葉が違うことは気にならなくなりました。おっ、何とかなるものだ！またまた何かが通じたように感じました。



八一中学生の二胡の演奏



ホストファミリーの刘（リュウ）君と

5日目。ホストファミリーとお別れです。せっかく慣れてきたのに、もうお別れなんて悲しい。爸爸、妈妈、ありがとうございます。寝る場所を譲ってくれたホストブラザー刘新くん、今日からは、自分のベッドで寝てね。僕を受け入れてくれたこと、ご飯を作ってくれたこと、一生忘れません。

今回の訪中で、日本と中国では文化や習慣が違うことを痛感しました。今だに何故？と思うことが沢山あります。しかし、言葉は通じなくても心は通じることを実感しました。昨年、この訪中プログラムに参加した姉が帰国報告の表題に「繋がるってイイネ！」と書きました。その意味が、ようやく理解出来ました。

最後になりましたが今回お世話になりました高松市国際交流協会の皆様に心より御礼申し上げます。また僕と一緒に旅をしてくれた訪中メンバーの皆さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。本当に楽しかった！行く前は長いかな、と思っていましたが、とても短く感じました。僕は、お金では買えない宝物を手に入れました。



将来の夢への第一歩！

香川県立高松北中学校 1年 青木 由希乃

胸を高鳴らせて待ち望んでいた、中国へのフライト。いざ上海空港に着くと色々不安になってきました。周りをぐると見渡しても中国語ばかりで「本当に私、大丈夫なのかな」と思っていました。上海のテレビ塔や動物園を見ているとだんだんその風景には慣れてきて楽しく観光できました。特に上海の夜景は一生忘れない程きれいで、美しかったです。

待ちに待ったホームステイ。私の将来の夢は外交官でその夢に向かっての少しでも経験になれば良いなと思いこの訪中使節団に応募しました。そんな事を思いながらホームステイ先の家に向かいました。いざ、家に着くと私はびっくりしました。まず1つ、階段に電気が無いという事です。あとアパートで7階まで階段で上ったということでした。



東洋最大の観覧車にて



ホストファミリー屈（クー）さんと

やはり日本のアパートとは大きく異なるなど改めて思いました。2つ目はごはんです。ごはんの量が多くてすごく驚きました。3つ目はお風呂です。シャワーとトイレが何の仕切りも無いのはとても驚きました。やはり中国は近いけれど文化は色々和日本と異なっているなど実感しました。



市政府近くの高層ツインビル前にて

ホストシスターはアニメが好きで一緒に「コナン」や「ジブリ」そして私の一番好きなアニメの「ヘタリア」を見ました。「ヘタリア」は気に入ってくれるかな、と不安でしたが、とても気に入ってくれて嬉しかったです。

南昌で心に残った所は滕王閣です。とても大きくて中もすてきで感動しました。私がこの使節団で学んだことは、国境を越えて友達を作り、お互いの文化を認め合うことです。私は今もホストシスターとメールでやり取りをしています。

国が違っても、言葉が違っても気持ちが通じ合える友達なのでこれからもこのような交流を続けていながら、今回学んだことを毎日の生活に役立てていきたいです。



I had a good time!

高松市立高松第一中学校 2年 久保田 殊羽

「大丈夫かな、...」中国へ行く前日の私はこう言っていました。でもそのような気持ちは28日の夜には、すっかりなくなっていました。今回の中国訪問の中の不安要素は2つありました。1つはホームステイで、もう1つはメンバーです。ホームステイの不安は的中しました。ホストシスターは、英語ペラペラ、...。同い年のはずなのに、私より英語がものすごく上手で、とても驚きました。それもそのはず、ホストマザーは中学校の英語の先生だったのです。

質問をされても「Yes」や「Yeah」しか言えなくて、とても迷惑をかけてしまったと思います。ホームステイの間、ずっと英語を使っていたおかげで、ホームステイが終了してからも英語が抜けず、団長さんにも英語を使ってしまうました。でもホストシスターの英語の上手さに圧倒され、自分の英語力の低さを痛感しました。英語は得意だったのでショックですが、英語をもっと勉強するきっかけを掴めたので良かったです。

2つ目の不安要素のメンバーは、あっさり解決しました。私以外の4人が中1だったのでものすごく心配でしたが、割と早く打ちとけることができました。親しみやすい4人と過ごす時間は楽しかったです。バスの中での会話やトランプが一番印象に残っています。

一番心に残った場所はテレビ塔です。中国に到着して最初に行った場所だからかもしれません。まず人の多さ！テレビ塔の列に並ぶ人の量の多さに驚かされました。長い列を並び終えやっと私たちの番。エレベーターに乗り上空へ。エレベーターを降りた私の目に飛び込んできたのは、絶景でした。高松にはないようなたくさんの高層ビル。川に映った夕陽の美しさに感動しました。その後の、下がガラス張りになっているフロアでは、怖くて足がすくみました。下が丸見えでミッキーマウスような形の物も見えました。



TV塔展望台より下を望む



文化創意園にて



上海動物園にて

中国で困った事は買い物です。スターバックスに入った時、抹茶が欲しいと英語で言ったのですが、聞き間違えられて、違う飲み物が出てきた時は困りました。言い直して抹茶を買いましたが、やっぱり言葉の壁は大きいなと思いました。

今回の中国訪問で、私はたくさんの事を学びました。異国の文化を理解し合うこと。協力し合うこと。感謝の気持ちをいつも忘れないこと。大切な事を学ぶことができました。

団員のみんな、馬場団長、高岡さん、ホストファミリー、顔さん、上海や南昌のガイドさん、本当にありがとうございました。この経験をこれからの人生に生かしていきたいです。楽しかった中国へ。ありがとう。



Let's Be Friends

高松市立紫雲中学校 1年 ルーツ 十河 エドワード

僕は、第22回高松市中学生訪中親善使節団に参加し、6日間南昌市と上海に行きました。南昌市と高松市は、今年で友好都市提携25周年という記念の年です。僕は、何度か海外旅行に行った事がありますが、家族と離れ1人で行くのは初めてで、緊張し不安な気持ちで空港に行きました。空港のロビーで担任の武藤先生を見つけて、「1人で色々挑戦して楽しんでください」と言ってくれてとてもうれしくなりました。

上海では、ホテルで皆とトランプをしました。初めて皆で話をして、これをきっかけに仲良くなりました。中国での目的は「南昌市で同じ年の友達を作り、英語で交流をする」ことです。この目的を果たす事が出来て、とても楽しく充実した、「親善使節」でした。

南昌市では、八一中学校で交流をしました。八一中学校は全校生約3000名と聞き、僕の紫雲中学校が約700名なので、どれだけの生徒が毎日登校しているのか想像するだけで、驚きです。八一中学校ではクイズや歌ったり踊ったり楽しく交流しました。皆から「Let's be friends!」と言われ、持っていった20枚の名刺がすぐになくなりました。

でも、一番の思い出は僕のホームステイ先のジャック君と仲良くなったことです。ジャック君は14歳で背が170cmと高く、とても優しいです。僕の重いスーツケースを6階まで運んでくれました。また、ジャック君とバドミントンをしましたが、とても上手で僕はボロ負けでした。次に、折り紙を教えましたが、とても手先が器用で上手に「つる」と「コマ」を折っていたのでびっくりしました。

ジャック君の両親には、美味しい食事に連れて行ってもらい、たくさんの「おもてなし」をしてもらいました。ジャック君は南昌市から高松市への中学生訪中使節団でもあり、僕

と同じ飛行機で高松市に来ました。その日からジャック君は僕の家で3日間ホームステイをしました。次は僕がジャック君に「おもてなし」をしました。レオマワールドのプールやアトラクションで遊び、その後回転寿司の食べ比べをし、僕は18皿、ジャック君は13皿食べました。毎晩遅くまで色々話をしました。楽しい

時間はあっという間に過ぎ、お別れの日、市役所の前でバスが出るまで僕とジャック君は話をし、「中国か日本で会おうね」と約束をしました。とても寂しかったです。1週間後ジャック君が帰国し、すぐに南昌市から電話がありました。ジャック君のお母さんは日本語や英語も話せて「ジャックとエドワード君は兄弟になりました!」と言ってくれ、とてもうれしかったです。

今回、この親善使節団に参加して、日本や中国の友達がたくさん出来ました。中国や日本で出会った友達とこれからも仲良くし、交流を続けたいです。

みんなありがとうございました! 謝謝! Thank you very much, everyone!



上海動物園にて



八一中学生徒達と



ホストファミリーと



レオマワールドにてジャック君と



僕の知らなかった中国

香川大学教育学部付属 高松中学校 1年 坂部 聖成

今回、中学生訪中親善使節団として6日間、中国を訪問しました。正直僕は中国という国に良いイメージは持っていませんでしたが、今回の訪中を通じて、そのイメージは全く別のものになりました。特に、印象に残ったことを紹介します。

1つ目は、中国で出会った人々が皆、日本に、好感を持ってくれているということでした。ホームステイ先のホストファミリーは、すごく優しく、英語も中国語も満足にしゃべれない僕に、なんとか会話をしようと、必死になって、話しかけてくれました。また、出してくれた料理はどれも、心のこもったものでした。夜にはバイクで写真屋さんに連れて行ってきて、思い出の1枚を撮ってもらったりしました。それから、八一中学の生徒達は僕達のためにダンスや歌を、披露してくれました。みんな、すごい笑顔でした。このような人達と、交流していく中で、人はどの国で生まれ育っても、心が通じ合えるんだと思いました。



ホストファミリーの尤（ヨウ）君と



新幹線「和譜号」で南昌へ

2つ目は、国の発展が、想像以上に進んでいたことでした。上海に、到着し、バスで移動した時に見た景色は、日本の東京より大都市でした。南昌市に移動する時に乗った高速鉄道も、日本の新幹線より早かったと思います。南昌市も、高松とは、比べようもないくらい、大きな都市でした。



ホストファミリーの家からの展望

今回の訪中は、5名と、人数が少なかったですが、皆で力を合わせて充実した6日間にする事が出来ま

した。南昌の人達が僕達に中国の事を感じさせてくれたように、僕達は日本や、高松の事を上手く伝えられたか、少し心配でしたが、一生懸命がんばったので、きっと伝わっていると思います。

僕は今回の訪中を通じて、外国の人と友好的な関係を築くために、必要な事とは、何かを、少しは知ることが出来たと思います。お互いを理解し合うためには、個人を知るだけではなく、その国の習慣、文化、歴史を知り、違いを尊重し合うことの大切さを感じました。今回の訪中を通して、中国の国民性を一部ではありますが、理解することができたことは、僕を大きく成長させてくれたと思います。

今後も意欲的に勉強して、積極的に海外の人と交流していきたいです。

最後になりましたが、今回、このような貴重な体験をさせてくれた両親、暑い中を引率して下さった馬場団長と高岡さん、そして一緒に行った仲間に感謝！

